




OpenManage Integration for VMware vCenter vSphere Desktop Client バージョン 3.2 用クイックイ ンストールガイド

メモ、注意、警告

 **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。

 **メモ:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

| | |
|--|-----------|
| 章 1: Dell OpenManage Integration for VMware vCenter のインストール | 4 |
| インストールについて..... | 4 |
| 作業を開始する前に..... | 4 |
| 章 2: OpenManage Integration for VMware vCenter の設定 | 14 |
| 設定ウィザードようこそページ..... | 14 |
| 新規接続プロファイルの作成ウィザード..... | 14 |
| イベントおよびアラームの設定ウィザード..... | 15 |
| プロキシサーバーの設定ウィザード..... | 16 |
| インベントリジョブのスケジュールウィザード..... | 16 |
| 保証取得ジョブウィザードの実行..... | 16 |
| 展開資格情報の設定ウィザード..... | 17 |
| デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリの設定ウィザード..... | 17 |
| OMSA リンクの有効化ウィザード..... | 18 |
| NFS 共有の設定..... | 18 |
| 章 3: OpenManage Integration for VMware vCenter ライセンス | 19 |
| ソフトウェアライセンスの購入およびアップロード..... | 19 |
| ライセンスのアップロード後のオプション..... | 20 |
| 強制..... | 20 |
| 章 4: その他の構成情報 | 21 |
| 章 5: 関連文書とリソース | 22 |
| デルサポートサイトからの文書へのアクセス..... | 22 |

Dell OpenManage Integration for VMware vCenter のインストール

トピック：

- インストールについて

インストールについて

本書は、OpenManage Integration for VMware vCenter (OMIVV) のインストールおよび設定の手順について説明しています。インストールが完了したら、インベントリ管理、監視とアラート、ファームウェアのアップデート、展開とプロビジョン、および保証管理を含むすべての管理面に関する情報について『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』(OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド) (dell.com/support/manuals) を参照してください。

作業を開始する前に

OMIVV のインストールを開始する前に、次の情報が必要です。

- OMIVV 仮想アプライアンスに設定される TCP/IP アドレス情報。
- OMIVV が vCenter Server にアクセスするためのユーザー名およびパスワード。このユーザーは、すべての必要な許可を持つ管理者役割である必要があります。vCenter 内で使用できる OMIVV の役割についての詳細は、dell.com/support/manuals の『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』(OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド) を参照してください。
- ESXi ホストシステム、またはホスト上の管理者権限を持つ Active Directory 資格情報の root パスワード。
- iDRAC Express または Enterprise に関連付けられたユーザー名とパスワード。
- vCenter サーバーおよび vSphere Client が利用可能であることを確認します。
- OMIVV OVF ファイルの場所。
- VMware vSphere 環境は、仮想アプライアンス、ポートアクセス、およびリスニングポート要件を満たしている必要があります。また、OMIVV の URL が Internet Explorer ブラウザの信頼済みサイトに属している必要があります。

① メモ:

Adobe Flash Player を vSphere Client システムにインストールします。Windows Server 2012 以降では、Internet Explorer ブラウザの Flash Player を有効にするには、**デスクトップエクスペリエンス機能**を有効にする必要があります。ESXi ホストに OMIVV (仮想アプライアンス) をインストールします。サポートされている Flash Player のバージョンの詳細については、『*OpenManage Integration for VMware vCenter Compatibility Matrix*』(OpenManage Integration for VMware vCenter の互換性マトリックス) を参照してください。

- ① **メモ:** 通常の仮想マシンとしての仮想アプライアンスの機能。中断またはシャットダウンは、仮想アプライアンスの全体的な機能に影響を与えます。

- ① **メモ:** OMIVV は、ESXi 5.5 以降に導入されたとき VMware ツールを **実行中 (旧式)** として表示します。アプライアンスの導入が正常に行われた後、またはその後必要に応じて VMware ツールをアップグレードできます。

- ① **メモ:** OMIVV と vCenter Server は、同じネットワーク上にあることが推奨されます。

ハードウェア要件

OMIVV のハードウェア要件は次のとおりです。

- サポートされているサーバーと BIOS の最小要件
- サポートされている iDRAC バージョン (導入および管理の両方)
- OMSA は旧式のサーバーと ESXi バージョンのサポートに対応 (導入と管理の両方) しています。詳細に関しては、 dell.com/support/manuals で『*OpenManage Integration for VMware vCenter Compatibility Matrix*』 (OpenManage Integration for VMware vCenter の互換性マトリックス) を参照してください。

ソフトウェア要件

vSphere 環境は、仮想アプライアンス、ポートアクセス、およびリスニングポート要件を満たす必要があります。

VMware vSphere にはデスクトップクライアントとウェブクライアントの両方があります。

特定のソフトウェア要件については、 dell.com/support/manuals にある『*OpenManage Integration for VMware vCenter Compatibility Matrix*』 (OpenManage Integration for VMware 互換性マトリックス) を参照してください。

OpenManage Integration for VMware vCenter のポート要件

| ポート | コンソール |
|---------------------------|--------------|
| 443 (https) および 80 (http) | 管理コンソール |
| 4433(https) | 自動検出とハンドシェイク |
| 162 および 11620 | SNMP トラップリスナ |
| 2049、4001、4002、4003、4004 | NFS 共有 |

インストールと設定の概要

以下は OMIVV インストール手順の概要です。実際にインストールを開始するには、「[vSphere Client を使用した OMIVV OVF の導入](#)、p. 5」を参照してください。

インストールの概要

1. OMIVV をインストールします。
 - a. vCenter Server が稼働していることを確認してください。
 - b. vSphere Client を使用して、OMIVV を含む Open Virtualization Format (OVF) ファイルを展開します。
 - c. ライセンスファイルをアップロードします。
 - d. 管理コンソール を使用して OMIVV を vCenter Server に登録します。
2. 設定ウィザードの手順を完了します。
3. Dell イベントを有効にし、設定ページでイベントフィルタオプションをセットアップします。
4. ファームウェアアップデートを有効にして、ファームウェアのアップデートをダウンロードし、該当するシステムで使用できるようにします。
5. Dell iDRAC のユーザー名およびパスワードを設定します。

vSphere Client を使用した OMIVV OVF の導入

この手順は、デルのウェブサイトから ZIP ファイルをダウンロードしていることを前提としています。

vSphere Client を使用した OMIVV OVF の導入

1. OMIVV 仮想ディスクを含むファイルを解凍し、[setup.exe] を実行します。
2. Setup.exe ファイルをダブルクリックして EULA に同意し、OVF ファイルを解凍して取得します。
3. アプライアンスをアップロードする VMware vSphere ホストへのアクセスが可能な場所に、OVF ファイルをコピー / 移動します。
4. VMware vSphere クライアントを開始します。
5. VMware vSphere Client から、[ファイル] > [OVF テンプレートの展開] を選択します。
6. ソース ウィンドウで、[参照] ボタンを使用して OVF パッケージの場所を確認します。この場所はローカルドライブ、ネットワークドライブ、CD/DVD、またはインターネットからのいずれかです。OMIVV ファイルのサイズは約 1.5 GB です。

メモ: OVF パッケージがネットワーク共有にある場合、インストールには 10~30 分かかります。短時間でインストールしたい場合は、OVF をローカルでホストすることをお勧めします。

7. [次へ] をクリックします。
8. **OVF テンプレートの詳細** ウィンドウで、表示される情報を確認します。
9. [次へ] をクリックします。
10. **名前と場所** ウィンドウで次の手順を実行します。
 - a. [名前] テキストボックスで、テンプレートの名前を入力します。この名前は半角文字で 80 文字以下となるようにします。
 - b. [インベントリの場所] リストで、テンプレートを保存する場所を選択します。
11. [Next] (次へ) をクリックします。
12. vCenter の設定に応じて、次のオプションの 1 つが表示されます。
 - リソースプールが設定されている場合 - リソースプールのページで、OMIVV の展開先となる仮想サーバーのプールを選択してください。
 - リソースプールが設定されていない場合 - ホスト / クラスターのページで、OMIVV の展開先となるホストまたはクラスターを選択してください。
13. ホストで 1 つ以上のデータストアが使用可能な場合、データストアのページが表示されます。OMIVV ファイルの保存先の場所を選択し、[次へ] をクリックします。
14. **ディスクの形式** ウィンドウで、仮想ディスクを保存する形式を選択します。
 - a. [シックプロビジョン Lazy Zeroed]

Lazy-zeroed のシックディスクは作成された時に割り当てられたすべてのディスク容量がありますが、各ブロックは最初の書き込みのみでゼロが書き込まれます。その結果、作成は短時間で済みますが、最初に書き込まれるブロックのパフォーマンスは遅くなります。それに続く書き込みは、Eager-zeroed シックディスクと同じパフォーマンスとなります。
 - b. [シックプロビジョン Eager Zeroed [推奨]]

Eager-zeroed シックディスクでは、作成と同時にすべての容量が割り当てられてゼロが書き込まれます。そのため、ディスク作成の時間が増えますが、各ブロックに対する最初の書き込みでさえも最高のパフォーマンスが得られます。
 - c. [シンプロビジョン [推奨されません]]

シンプロビジョンの仮想ディスクに必要な容量は、作成の時ではなく最初の書き込みの時に割り当てられてゼロが書き込まれます。何も書かれていないファイルブロックに最初に書き込むときの I/O コストは大きく (Lazy-zeroed のシックディスクと同様) となりますが、その後のシンプロビジョンディスクでの書き込みでは、Eager-zeroed シックディスクと同じパフォーマンスとなります。
15. [次へ] をクリックします。
16. **宛先ネットワーク** の下で、アプライアンスに適切なネットワークを選択して、**次へ** をクリックします。

メモ: OMIVV と vCenter Server は、同じネットワーク上にあることが推奨されます。
17. **完了の準備** ウィンドウで、OVF 展開タスクに選択したオプションを確認し、**展開後に電源を投入** を選択して [完了] をクリックします。展開ジョブが実行され、完了ステータスウィンドウが表示され、ジョブの進捗状況を確認できます。

必要な権限を持つユーザーによる vCenter サーバーの登録

vCenter サーバーの vCenter 管理者資格情報または必要な権限を持つユーザーで、OMIVV アプライアンス用の vCenter サーバーを登録できます。

必要な権限を持つユーザーを有効にして vCenter サーバーを登録するには、次のステップを実行します。

1. 役割を追加してその役割の権限を選択するか、既存の役割を変更し、その役割に対して選択されている権限を変更します。vSphere クライアントで、役割の作成または変更と権限の選択に必要な手順については、VMware vSphere のマニュアルを参照してください。役割の該当するすべての権限の選択については、[「権限の定義」](#)、p. 7] を参照してください。

メモ: vCenter の管理者が役割を追加または変更する必要があります。
2. 役割を定義し、その役割の権限を選択したら、ユーザーおよびその役割を、対応するインベントリオブジェクトに割り当てます。vSphere クライアントでの権限割り当ての詳細については、VMware vSphere のマニュアルを参照してください。以上で、必要な権限のある vCenter サーバーユーザーが、vCenter の登録と登録解除ができるようになります。

メモ: vCenter の管理者は vSphere クライアントで権限を割り当てる必要があります。

3. 必要な権限を持つユーザーを使用して、管理コンソールで vCenter サーバーを登録します。[必要な権限を持つユーザーによる vCenter サーバーの登録、p. 6] を参照してください。
4. OMIVV の操作を実行するには、手順 1 で作成または変更した役割にデルの権限を割り当てます。[役割へのデルの権限の割り当て、p. 8] を参照してください。

以上で、必要な権限のあるユーザーが Dell ホストの OMIVV 機能を利用できるようになります。

権限の定義

vCenter サーバーを登録するために必要な権限を持つユーザーを有効にするには、次の権限を選択します。

- アラーム
 - アラームの作成
 - アラームの変更
 - アラームの削除
- 内線番号
 - 拡張子の登録
 - 拡張子の登録解除
 - 拡張子の更新
- Global (グローバル)
 - タスクのキャンセル
 - ログイベント
 - 設定
- Host (ホスト)
 - CIM
 - CIM インタラクション
 - 構成
 - 詳細設定
 - 接続
 - メンテナンス
 - パッチの問い合わせ
 - セキュリティプロファイルとファイアウォール
 - インベントリ
 - クラスタにホストを追加
 - スタンドアロンホストの追加
- ホストプロファイル
 - 編集
 - 表示
- 許可
 - 権限の変更
 - 役割の変更
- セッション
 - セッションの検証
- タスク
 - タスクの作成
 - タスクの更新

① メモ: 指定された権限が割り当てられていない場合は、使用可能な権限のあるユーザーで vCenter サーバーを登録中に、エラーメッセージが表示されます。

必要な権限を持つユーザーによる vCenter サーバーの登録

必要な権限を持つユーザーで OMIVV アプライアンス用に vCenter サーバーを登録できます。vCenter サーバー登録の詳細については、vCenter サーバー登録の詳細については、OMIVV の vCenter 内での登録とライセンスファイルのインポート、p. 8 のステップ 21 を参照してください。vCenter サーバー登録の詳細については、

役割へのデルの権限の割り当て

既存の役割を編集し、デルの権限を割り当てることができます。

メモ: 管理者権限のあるユーザーとしてログインしていることを確認します。

既存の役割にデルの権限を割り当てるには、次の手順を実行します。

1. 管理者権限で vSphere クライアントにログインします。
2. vSphere クライアントの [ホーム] ページで、[役割] をクリックします。
3. 編集する役割を右クリックし、[役割の編集] を選択します。
4. Dell インフラストラクチャ展開の役割、Dell Operational Role の次の権限を選択し、[OK] をクリックします。
 - Dell
 - Dell.Configuration
 - Dell.Deploy — プロビジョニング
 - Dell.Inventory
 - Dell.Monitoring
 - Dell.Reporting

vCenter で使用可能な OMIVV 役割の詳細については、『*OpenManage Integration for VMware vCenter Client User's Guide*』 (OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド) の [Security Roles and Permissions] (セキュリティの役割および許可) のセクションを参照してください。vCenter で使用可能な OMIVV 役割の詳細については、『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』 (OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド) の

権限と役割の変更は直ちに有効になります。以上で、必要な権限を持つユーザーが、OpenManage Integration for VMware vCenter の操作を実行できるようになります。

メモ: すべての vCenter 操作で、OMIVV は、ログインしているユーザーの権限ではなく、登録されているユーザーの権限を使用します。

OMIVV の vCenter 内での登録とライセンスファイルのインポート

vCenter サーバーを登録するには、次の手順を実行します。

1. vSphere クライアントから、[ホーム] > [ホストとクラスタ] を選択し、左パネルで先ほど展開した OMIVV の場所を特定して、電源が入っていない場合は [仮想マシンの電源をオンにする] をクリックします。
2. メインの VMware vCenter ウィンドウの [コンソール] タブをクリックして、管理コンソールを起動します。
3. OMIVV の起動が完了するのを待ち、**admin** のユーザー名を入力し、**Enter** を押します。
4. 新しい管理者パスワードを入力します。パスワードは、表示されているパスワードの複雑性に関するルールに従って設定する必要があります。**Enter** を押します。
5. 以前に提供されたパスワードを再度入力し、**Enter** を押します。**Enter** を押して、OMIVV アプライアンスでネットワークおよびタイムゾーン情報を設定します。
6. OMIVV タイムゾーン情報を設定するには、**日付と時刻のプロパティ** をクリックし、タイムゾーンと日付を設定します。

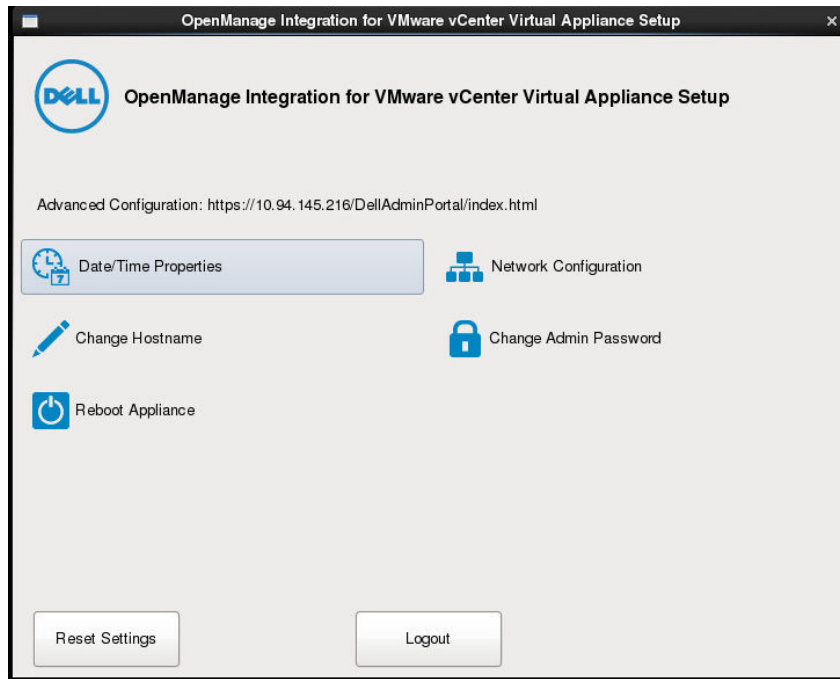


図 1. コンソールタブ

7. 日付と時刻 タブで、ネットワーク上で日付と時間の同期化 を選択します。
NTP サーバーボックスが表示されます。
8. 有効な NTP サーバーの詳細を、vCenter の同期先に追加します。
9. タイムゾーン をクリックして、該当するタイムゾーンを選択し、OK をクリックします。
10. OMIVV アプライアンスで静的 IP を設定するには、ネットワーク設定 をクリックします。またはステップ 17 に進んでください。
11. Auto eth0 を選択し、編集 をクリックします。
12. IPv4 設定 タブを選択し、方法 ドロップダウンで 手動 を選択します。
13. [追加] をクリックして、有効な IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイ情報を追加します。
14. DNS サーバー の詳細を、DNS サーバーフィールドに追加します。
15. 適用 をクリックします。
16. OMIVV アプライアンスのホスト名を変更するには、ホスト名の変更 をクリックします。
17. 有効なホスト名を入力して ホスト名のアップデート をクリックします。
18. ウェブブラウザを開き、アプライアンスの IP アドレスまたはホスト名をタイプします。
例えば、https://10.210.126.120 または https://myesxihost となります。URL は大文字と小文字を区別しません。

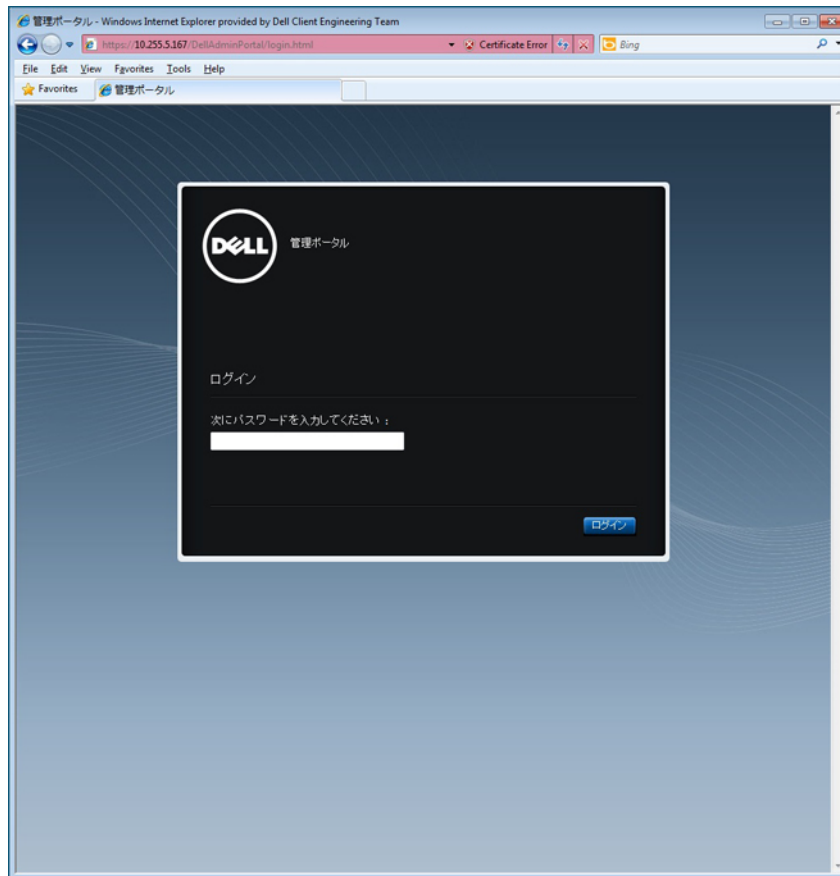


図 2. 管理コンソール

19. 管理コンソールのログインウィンドウでパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

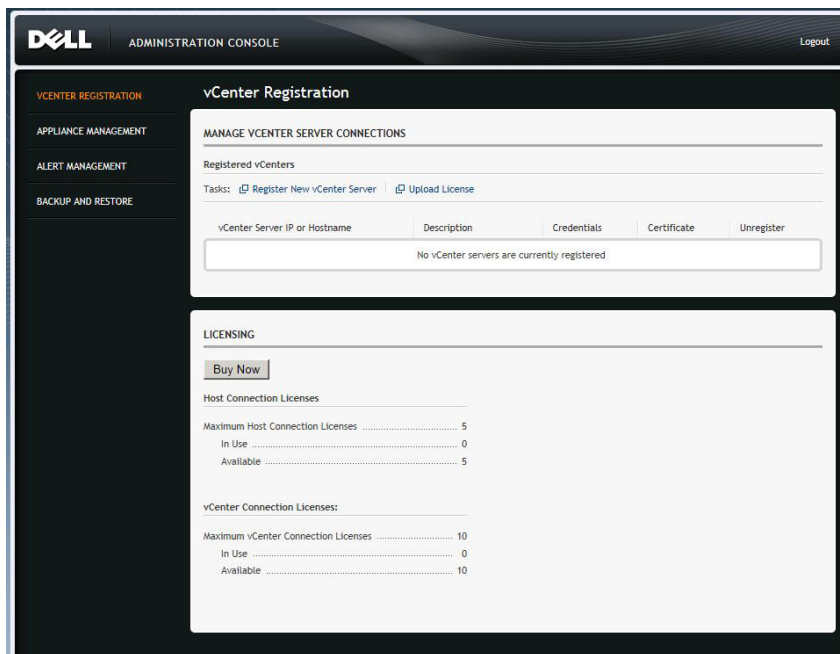


図 3. 管理コンソール内からの vCenter 登録ウィンドウ

20. vCenter 登録 ウィンドウで、[新規 vCenter サーバーの登録] をクリックします。

21. [新規 vCenter の登録] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a. [vCenter の名前] で、[vCenter サーバー IP またはホスト名] テキストボックスにサーバー IP またはホスト名を入力した後で、[説明] テキストボックスにオプションの説明を入力します。
- b. [vCenter ユーザーアカウント] の [vCenter ユーザー名] テキストボックスに、管理者ユーザー名または必要な権限を持つユーザー名を入力します。ユーザー名は、ドメイン\ユーザー、ドメイン/ユーザー、またはユーザー@ドメインの形式で入力してください。管理者ユーザーアカウントまたは必要な権限を持つユーザー名は OMIVV for vCenter 管理によって使用されます。

メモ: OMIVV の 1 つのインスタンスは、同じ vCenter SSO の一部となっている最大 10 個の vCenter をサポートできません。vCenter の複数独立インスタンスは現在サポートされていません。

メモ: 完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用した OMIVV の登録が、強く推奨されます。FQDN ベースの登録では、vCenter のホスト名が DNS サーバーにより適切に解決できる必要があります。

- c. [Password] (パスワード) テキストボックスにパスワードを入力します。
- d. [パスワードの確認] テキストボックスにパスワードを再度入力します。

22. [Register] (登録) をクリックします。

23. 次の手順のいずれか 1 つを実行します。

- OMIVV の評価バージョンをお使いの場合は、ステップ 25 に進みます。
- 完全な製品バージョンを使用している場合は、登録した電子メールの添付として送付される **license.xml** ファイルがあります。このファイルには製品ライセンスが含まれ、このライセンスを仮想アプライアンスにインポートする必要があります。ライセンスファイルをインポートするには、[ライセンスのアップロード] をクリックします。

24. **ライセンスのアップロード** ウィンドウで [参照] ボタンをクリックしてライセンスファイルの参照先を指定します。[アップロード] をクリックしてライセンスファイルをインポートします。

メモ: ライセンスファイルが変更または編集されている場合、そのライセンスファイルは動作しません。

25. OMIVV が登録されると、vCenter ホームページの [管理] カテゴリの下に OMIVV アイコンが表示されます。

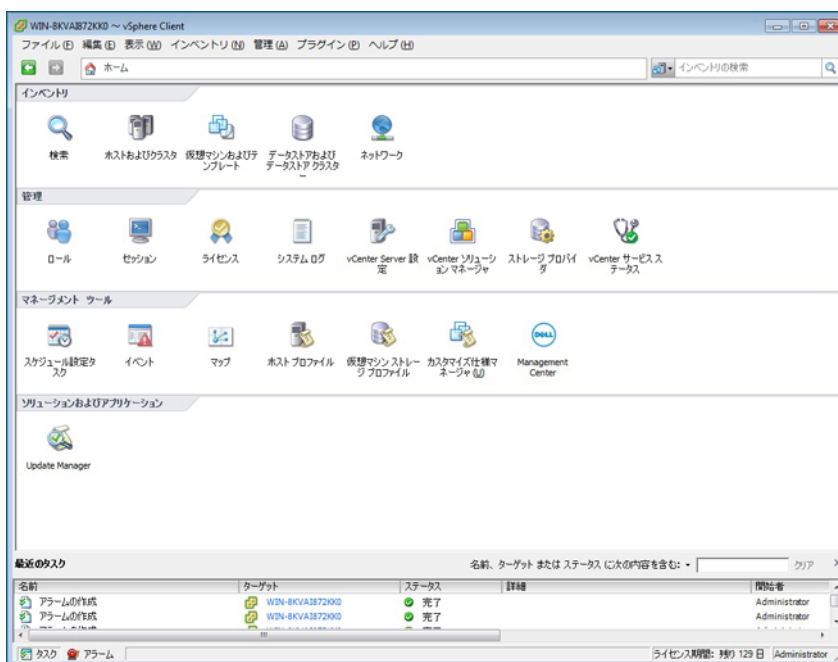


図 4. OMIVV が vCenter に正常に追加されました。

メモ: すべての vCenter 操作で、OMIVV は、ログインしているユーザーの権限ではなく、登録されているユーザーの権限を使用します。

例：必要な権限を持つユーザー X が vCenter に OMIVV を登録し、ユーザー Y にはデルの権限のみがあるとします。ユーザー Y は vCenter にログインでき、OMIVV からファームウェアアップデートタスクをトリガできます。ファームウェアのアップデートタスクの実行中に、OMIVV はユーザー X の権限を使用して、マシンをメンテナンスモードにするかホストを再起動します。

インストールの検証

次の手順で OMIVV のインストールが正常に行われたことを検証します。

1. vSphere クライアントにログオンして、OMIVV のアイコンが vSphere クライアント内部に表示されていることを確認します。表示されていない場合、vSphere Client を再起動して再度確認します。
2. vCenter Server から仮想アプライアンス IP アドレスまたはホスト名宛てに ping コマンドの実行を試行して、vCenter が OMIVV と通信可能であることをチェックします。
3. [vSphere クライアント] で、[プラグイン] > [管理対象プラグイン] をクリックします。[プラグインマネージャ] ウィンドウで OMIVV がインストール済みで有効化されていることを検証します。

既存のバージョンから最新バージョンへの OMIVV のアップグレード

1. 管理コンソールを開くには、OpenManage Integration for VMware vCenter の [ヘルプとサポート] タブで、[管理コンソール] の下のリンクをクリックするか、Web ブラウザーを起動して `https://<ApplianceIP|hostname>` という URL を指定します。
2. [ログイン] ダイアログボックスにパスワードを入力します。
3. 管理コンソールの左側のペインで、[アプライアンスの管理] をクリックします。
4. [アプライアンスの管理] ページで、お使いのネットワーク設定により、ネットワークでプロキシが必要な場合はプロキシを有効にしてプロキシ設定を入力します。[HTTP プロキシの設定] を参照してください。
5. OpenManage Integration のプラグインを既存のバージョンから現在のバージョンにアップグレードするには、次のいずれかの手順を実行します。
 - [リポジトリパスのアップデート] が次のパスに設定されていることを確認します：<http://linux.dell.com/repo/hardware/vcenter-plugin-x64/latest/>。パスが異なっている場合は、[アプライアンス管理] ウィンドウの [アプライアンス アップデート] 領域で、[編集] をクリックし、[リポジトリパスのアップデート] テキストボックスでパスを `http://linux.dell.com/repo/hardware/vcenter-plugin-x64/latest` にアップデートします。保存するには、[適用] をクリックします。
 - インターネット接続がない場合は、<http://linux.dell.com/repo/hardware/vcenter-plugin-x64/latest/> パスからすべてのファイルおよびフォルダーをダウンロードして HTTP 共有にコピーします。[アプライアンスの管理] ウィンドウの、[アプライアンスのアップデート] セクションで、[編集] をクリックし、次に [リポジトリパスのアップデート] テキストボックスに、オフラインの HTTP 共有へのパスを含め、[適用] をクリックします。
6. 利用可能な仮想アプライアンスのバージョンと現在の仮想アプライアンスのバージョンを比較し、利用可能な仮想アプライアンスのバージョンが、現在の仮想アプライアンスのバージョンより新しいことを確認します。
7. 仮想アプライアンスにアップデートを適用するには、[アプライアンスの設定] で、[仮想アプライアンスのアップデート] をクリックします。
8. [アプライアンスのアップデート] ダイアログボックスで、[アップデート] をクリックします。[アップデート] をクリックした後は、[管理コンソール] ウィンドウからログオフされます。
9. Web ブラウザを閉じます。

① メモ: RPM のアップグレードが完了すると、OMIVV コンソールにログイン画面が表示されます。ブラウザを開き、`https://<ApplianceIP/hostname>\DellAdminPortal` というリンクを指定して、[アプライアンスのアップデート] 領域に移動します。使用可能な仮想アプライアンスと現在の仮想アプライアンスのバージョンが同じであることを確認できます。

① メモ:

2.x から 3.2 への移行

古いバージョンをアンインストールした後に v3.2 OVF を改めて導入してから、バックアップとリストアのパスを使用して古いバージョン (2.x) からバージョン 3.2 にデータを移行することができます。

古いバージョンから OMIVV バージョン 3.2 に移行するには、次の手順を実行します。

1. 以前 (v2.x) のリリースのデータベースをバックアップします。
詳細については、Dell.com/support/manuals にある『OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド』を参照してください。
2. vCenter から旧アプライアンスの電源を切ります。
 - ① メモ:** vCenter から OMIVV のプラグインの登録を解除しないでください。vCenter からプラグインの登録を解除すると、OMIVV プラグインによって vCenter に登録されたアラームと、そのアラームで実行されるカスタマイズ (アクションなど)

がすべて削除されます。バックアップ後にプラグインの登録を解除してしまった場合は、「[以前のバージョンのプラグイン登録解除後の OMIVV のリカバリー](#)」を参照してください。

3. 新しい OpenManage Integration バージョン 3.2 の OVF を展開します。
OVF の導入に関する詳細については、「[vSphere Client を使用したプラグイン OVF の導入](#)」を参照してください。
4. OpenManage Integration バージョン 3.2 アプライアンスに電源を入れます。
5. アプライアンスのネットワークおよびタイムゾーンを設定します。

新しい OpenManage Integration バージョン 3.2 のアプライアンスの IP アドレスが、旧アプライアンスのものと同じであることを確認します。ネットワークの詳細を設定するには、「[OMIVV の vCenter 内での登録とライセンスファイルのインポート](#)、p. 8」を参照してください。

メモ: OMIVV 3.2 アプライアンスの IP アドレスが古いアプライアンスのものと同じでない場合、OMIVV プラグインが正常に動作しない可能性があります。この場合、すべての vCenter インスタンスの登録を解除して、再度登録してください。

6. 新しい OMIVV アプライアンスにデータベースを復元します。

メモ: クラスタで Proactive HA を有効にしている場合は、OMIVV がそれらのクラスタの Dell Inc プロバイダを登録解除し、復元後に Dell Inc プロバイダを再度登録します。そのため、Dell ホストの正常性アップデートは、復元が完了するまで使用できません。

詳細については、Dell.com/support/manuals にある『*OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド*』の「[バックアップからの OMIVV データベースの復元](#)」を参照してください。

7. 新しいライセンスファイルをアップロードします。
詳細については、「[OMIVV の登録とライセンス ファイルのインポート](#)」を参照してください。
8. アプライアンスを検証します。
データベースの移行が正常に行われたことの確認の詳細については、「[インストールの確認](#)」を参照してください。
9. すべてのホストで [インベントリ] を実行します。

メモ:

アップグレード後に、OMIVV で管理するすべてのホスト上でインベントリを実行することをお勧めします。詳細については、『*OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド*』の「[インベントリ ジョブの実行](#)」を参照してください。

新しい OMIVV バージョン 3.2 アプライアンスの IP アドレスが旧アプライアンスの IP アドレスから変更された場合、新しいアプライアンスをポイントするように SNMP トラップの宛先を設定します。第 12 世代以降のサーバの場合は、これらのホストでインベントリを実行することによって IP の変更が修正されます。以前のバージョンに準拠していた第 12 世代よりも前のホストでは、IP が変更されると非準拠として表示され、Dell EMC OpenManage Server Administrator (OMSA) を設定する必要があることが示されます。ホストの対応性の修正に関する詳細については、Dell.com/support/manuals にある『*OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド*』の「[vSphere ホストの対応性のレポートおよび修正](#)」を参照してください。

以前のバージョンの OMIVV の登録解除した後で OMIVV をリカバリする

以前のバージョンのデータベースに対するバックアップを取得した後で OMIVV プラグインの登録を解除した場合は、移行に進む前に次のステップを実行してください。

メモ: プラグインの登録を解除すると、プラグインによって登録されたアラームに実装されていたすべてのカスタマイズが削除されます。次の手順では、カスタマイズは復元されません。デフォルトの状態ではアラームが再登録されます。

1. 「[2.x から 3.2 への移行](#)、p. 12」のステップ 3~5 を実行します。
2. 以前のプラグインで登録したときと同じ vCenter にプラグインを登録します。
3. 移行を完了するには、「[2.x から 3.2 への移行](#)、p. 12」のステップ 6~ステップ 8 を実行します。

OpenManage Integration for VMware vCenter の設定

OMIVV は、基本的なインストール後、設定する必要があります。これは通常設定ウィザードを使用して行いますが、Dell Management Center の設定ページオプションを使って行うこともできます。

両方のペイン内のユーザーインターフェースは似通っていますが、ウィザードでは **保存して続行** をクリックするのに対し、**設定** オプションでは **適用** をクリックします。

本項では、ウィザードを使用した設定について説明します。Dell Management Center の **設定** オプションを使用して OMIVV 設定する詳細に関しては、dell.com/support/manuals で『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。

トピック：

- 設定ウィザードようこそページ
- 新規接続プロファイルの作成ウィザード
- イベントおよびアラームの設定ウィザード
- プロキシサーバーの設定ウィザード
- インベントリジョブのスケジュールウィザード
- 保証取得ジョブウィザードの実行
- 展開資格情報の設定ウィザード
- デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリの設定ウィザード
- OMSA リンクの有効化ウィザード
- NFS 共有の設定

設定ウィザードようこそページ

OMIVV をインストールした後は、設定する必要があります。

1. [vSphere クライアント] の [ホーム] ページで、[管理] タブの下の [Dell Management Center] アイコンをクリックします。
初めて [Dell Management Center] アイコンをクリックする場合、[設定ウィザード] が開きます。このウィザードには、[Dell Management Center] > [設定] ページからアクセスすることもできます。
2. [ようこそ] タブで手順を確認し、[次へ] をクリックします。

新規接続プロファイルの作成ウィザード

接続プロファイルは、仮想アプライアンスが Dell サーバーと通信するために使用する資格情報を保存します。各 Dell サーバーは、OMIVV で管理する接続プロファイルと関連付ける必要があります。設定ウィザードと Dell Management Center での接続プロファイルの作成方法は似ており、**設定** オプションで設定します。Active Directory の資格情報を使用して、iDRAC とホストに接続するよう OMIVV を接続します。接続プロファイルで Active Directory 資格情報を使用するには、Active Directory のユーザーアカウントが Active Directory と iDRAC Active Directory に存在している必要があり、ベースの認証のためのホストを構成する必要があります。Active Directory 資格情報は iDRAC とホストの両方で同一に設定にすることもできます。ユーザー資格情報に管理者権限を持たせる必要があります。

① メモ: Dell PowerEdge サーバーの第 12 世代以降を使用したホストでのインストールでは、OMSA エージェントのインストールは必要ありません。第 11 世代サーバーへのインストールでは、OMSA エージェントは導入プロセス中に自動的にインストールされます。

① メモ: 追加されたホストの数が接続プロファイルの作成に対するライセンス制限を超過する場合は、接続プロファイルを作成できません。

ウィザードを使用して、新規接続プロファイルを作成するには、次の手順を実行します。

1. [接続プロファイル] タブで、[新規作成] をクリックします。
2. [プロファイル名と説明] パネルでカスタム接続プロファイルを管理しやすくするために使われる [プロファイル名] と説明を入力し、次へ をクリックします。
3. [関連ホスト] セクションでは、接続プロファイルに関連付けるホストを選択し、[次へ] をクリックします。
4. 資格情報と接続プロトコルの情報を表示し、[次へ] をクリックします。
5. iDRAC パネルで、iDRAC 資格情報を入力します。
 - a. iDRAC が設定済みで、Active Directory を使用する Active Directory で有効になっている場合、**Active Directory を使用する** チェックボックスを選択します。それ以外の場合は、iDRAC のローカルの資格情報 ([ユーザー名] [パスワード] および [パスワードの確認]) を入力します。ユーザー名にはスペースを含めて 16 文字を使用できます。パスワードは一致する必要があり、印刷可能な ASCII 文字のみを入力します。
 - b. [証明書のチェック] では、[有効] を選択し、すべての将来の接続に iDRAC 証明書をダウンロードして検証するか、または [無効] を選択して、証明書の確認と保存を行わないようにします。
6. [次へ] をクリックします。
7. [ホストルートの資格情報] パネルでは、以下を行います。
 - a. Active Directory 資格情報を有効にするには、**Active Directory を使用する** チェックボックスを選択する必要があります。ユーザー名、パスワード、およびパスワードの確認を入力します。
 - b. **Active Directory を使用する** が選択されていない場合は、**root** ユーザーの [パスワード] を入力して、**パスワードを確認** します。両パスワードは一致する必要があります。
 - c. [証明書のチェック] では、[有効] を選択し、すべての将来の接続に OMSA/ESXi 証明書をダウンロードして検証するか、または [無効] を選択して、証明書の確認と保存を行わないようにします。
8. [次へ] をクリックします。
9. [接続性のテスト] ウィンドウで入力した iDRAC とホストの root 資格情報をテストします。接続のテストはオプションですが、実施されることをお勧めします。
 - テストを開始するには、ホストを選択して [選択内容をテスト] をクリックします。その他のオプションは無効になっています。
 - すべてのテストが完了する前に中止するには、[すべてのテストを中止] をクリックします。
10. プロファイルを完了するには、[保存] をクリックします。
11. イベントとアラームの設定を続けるには、[保存して続行] をクリックします。

イベントおよびアラームの設定ウィザード

設定ウィザードまたは Dell Management Center のイベントとアラームの設定オプションから、イベントおよびアラームを設定します。サーバーからのイベントの受信には、OMIVV をトラップ送信先として設定します。第 12 世代およびそれ以降のホストでは、SNMP トラップ送信先を iDRAC で設定します。第 12 世代より前のホストでは、OMSA でトラップの生成が設定されています。

① メモ: OMIVV は第 12 世代以降のホストで SNMP v1 および v2 をサポートしています。ホストを追加することができます。後で、第 12 世代第 12 世代より前のホストでは、OMIVV は SNMP v1 アラートをサポートしています。

イベントとアラームを設定するには、次の手順を実行します。

1. [設定ウィザード] の [イベント掲載レベル] で、以下のいずれかを選択します。
 - すべてのイベントを掲載しない — ハードウェアイベントはブロックされます。
 - すべてのイベントを掲載する — すべてのハードウェアイベントが掲載されます。
 - 重要および警告イベントのみを掲載する — 重要または警告レベルのハードウェアイベントのみが掲載されます。
 - 仮想化関連の重要および警告イベントのみを掲載する — 仮想化関連の重要および警告イベントのみが掲載されます。これはデフォルトのイベント掲載レベルです。
2. すべてのハードウェアアラームを有効にするには、[Dell ホストのアラームを有効にする] チェックボックスを選択します。

① メモ: アラームが有効化されている Dell ホストは、重要イベントに対応して保守モードに入ります。
3. 表示されるダイアログボックスで [続行] をクリックしてこの変更を確定するか、または [キャンセル] をクリックします。

① メモ: この手順は、[Dell ホストのアラームを有効にする] が選択されている場合のみ表示されます。
4. すべての管理されている Dell サーバーで、デフォルトの vCenter アラーム設定を復元するには、[デフォルトのアラームの復元] をクリックします。変更が有効になるには、最大 1 分かかることがあります。
5. ウィザードを続けるには、[保存して続行] をクリックします。

メモ: OMIVV アプライアンスのバックアップを復元しても、すべてのアラームの設定を復元することはできません。ただし、GUI OMIVV には、[アラームおよびイベント] フィールドに復元された設定が表示されます。この問題を解決するには、GUI OMIVV の [管理] > [設定] タブで、イベントおよびアラームの設定を手動で変更します。

プロキシサーバーの設定ウィザード

プロキシサーバーは、設定ウィザードで、または後ほど Dell Management Center の [設定] > [プロキシ] ページを使用して設定します。

プロキシサーバーを設定するには、以下を行います。

- [HTTP プロキシの設定ウィンドウ] で以下のいずれかを行います。
 - プロキシサーバーを使用しない場合は、[保存して続行] をクリックします。
 - プロキシサーバーを使用する場合は、[設定] で [プロキシサーバーのアドレス] を入力します。
- [プロキシポート番号] を入力します。
- 必要に応じて、[資格情報が必須です] チェックボックスを選択します。
- [資格情報が必須です] を選択した場合は、以下を行います。
 - [プロキシユーザー名] テキストボックスにプロキシユーザー名を入力します。
 - [プロキシパスワード] テキストボックスにプロキシパスワードを入力します。
 - [パスワードの確認] テキストボックスにプロキシパスワードを再入力します。
- [プロキシ] で [プロキシを使用する] チェックボックスを選択します。
- これらのオプションを保存して継続するには [保存して続行] をクリックします。

インベントリジョブのスケジュールウィザード

インベントリスケジュール設定は、設定ウィザードからの実行も、[Dell Management Center] > [設定] オプションからの実行も、ほぼ同じです。唯一の違いは、ウィザードではインベントリを直ちに実行する場合に選択するオプションが提供されることです。

メモ: OMIVV が常に最新の情報を表示するようにするため、定期的なインベントリジョブをスケジュールすることをお勧めします。インベントリジョブは最小のリソースで実行でき、ホストのパフォーマンスを劣化させることはありません。

インベントリジョブのスケジュールには、以下を行います。

- [設定ウィザード] の [インベントリのスケジュール] ウィンドウで、以下の中から1つを行います。
 - インベントリスケジュールを実行するには、[選択した曜日] をクリックします。
 - インベントリスケジュールを実行しない場合は、[Dell ホストではインベントリを実行しない] を選択します。
- [選択した曜日] を選択した場合は、以下を行います。
 - インベントリを実行したい各曜日の横にあるチェックボックスを選択します。
 - テキストボックスに、時刻を HH:MM フォーマットで入力します。

入力する時刻は現地時間です。したがって、仮想アプライアンスのタイムゾーンでインベントリを実行したい場合は、現地時間と仮想アプライアンスのタイムゾーンの時間との差を計算して、適切な時刻を入力してください。
- 変更を適用して継続するには、[保存して続行] をクリックします。

保証取得ジョブウィザードの実行

保証取得ジョブの設定は、ウィザードから行う場合と、[Dell Management Center] > [設定] オプションから行う場合もほぼおなじです。また、ジョブキューから保証取得ジョブを今すぐ実行することができます。

保証取得ジョブを実行するには以下を行います。

- [設定ウィザード] の [保証のスケジュール] ウィンドウで、以下のいずれかを行います。
 - 保証スケジュールを実行するには、[選択した曜日] をクリックします。
 - 保証スケジュールを実行しないようにするには、[保証情報を取得しない] を選択します。
- [選択した曜日] を選択した場合は、以下を行います。
 - 保証ジョブを実行したい各曜日の横にあるテキストボックスを選択します。

b. テキストボックスに、時刻を HH:MM フォーマットで入力します。

入力する時刻は現地時間です。したがって、仮想アプライアンスのタイムゾーンでインベントリを実行したい場合は、現地時間と仮想アプライアンスのタイムゾーンの時間との差を計算して、適切な時刻を入力してください。

3. 変更を適用して継続するには、[保存して続行] をクリックします。

メモ: OMIVV がインターネットに接続してホストの保証情報を取得します。お使いのネットワーク設定に応じて、保証ジョブを正常に実行するためにプロキシの設定が必要な場合があります。

展開資格情報の設定ウィザード

展開資格情報は検出されたベアメタルシステムと安全に通信するために使用されます。iDRAC とのセキュアな通信のために、OMIVV は初期検出から展開プロセスが終了するまで、展開資格情報を使用します。

警告: セキュリティ上の理由により、この機能はこのリリースでは機能しません。

デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリの設定ウィザード

ファームウェアリポジトリ設定には、展開済みサーバーのアップデートに使用されるファームウェアカタログの場所が含まれます。ファームウェアリポジトリの設定は最初にこのウィザードで設定するか、後で Dell Management Center の設定オプションで設定できます。さらに、ファームウェアアップデートも後で OpenManage Integration タブから実行できます。

デフォルトのファームウェアアップデートリポジトリを設定するには、以下を行います。

1. [設定ウィザード] の [ファームウェアリポジトリ] で、ファームウェアアップデートのためにデフォルトリポジトリを選択するには、以下のいずれか 1 つを選択します。

- Dell Online

ステーjingフォルダのある、デフォルトのファームウェアリポジトリ (ftp.dell.com) です。OMIVV は選択されたファームウェアのアップデートをダウンロードし、それらをステーjingフォルダに保存して、必要に応じて適用します。

メモ: OMIVV がインターネットに接続してホストに適用可能なカタログおよびファームウェアパッケージを取得します。お使いのネットワーク設定に応じて、ファームウェアのアップデートタスクを Dell からオンラインで正常に実行するために、プロキシを設定する必要がある場合があります。

- ローカル / 共有リポジトリ

これらは Dell Repository Manager アプリケーションを使って作成されます。このローカルリポジトリはネットワーク共有である必要があります。OMIVV は NFS と CIFS 共有の両方をサポートしています。

2. [ローカル / 共有リポジトリ] を選択した場合、以下を行います。

a. 次のフォーマットを使って、[カタログファイルの場所] を入力します。

- xml ファイル用の NFS 共有: host:/share/filename.xml
- gz ファイル用の CIFS 共有: \\host\share\filename.gz
- xml ファイル用の CIFS 共有: \\host\share\filename.xml
- gz ファイル用の CIFS 共有: \\host\share\filename.gz

b. CIFS 共有を使用する場合、[ユーザー名]、[パスワード]、[パスワードの確認] を入力します。両パスワードは一致する必要があります。これらの欄は CIFS 共有を入力する場合にのみアクティブになります。

メモ: 共有ネットワークフォルダのユーザー名 / パスワードには、@ 文字は使用できません。

c. 入力情報を確認するには、[テストの開始] をクリックします。

3. この選択を保存して [設定ウィザード] を継続するには、[保存して続行] をクリックします。

OMSA リンクの有効化ウィザード

OMIVV 仮想アプライアンスで OMSA を起動するには、OMSA Web Server (OMSA ウェブサーバー) のインストールと設定が必要です。ウェブサーバーのインストールおよび設定の手順に関しては、『*Dell OpenManage Server Administrator Installation Guide*』(Dell OpenManage Server Administrator インストールガイド) を参照してください。

メモ: OMSA は、第 12 世代のバージョンより前の Dell サーバーでのみ必要になります。

OMSA を使用して、以下を行うことができます。

- vCenter エlement (詳細センサ / コンポーネントレベルの正常性情報) の管理。
 - コマンドログおよびシステムイベントログ (SEL) の消去。
 - NIC 統計情報の取得。
 - OMIVV が選択したホストからのイベントをキャプチャしていることを確認します。
1. [設定ウィザード] の [OpenManage Server Admin] ページで [OMSA Web Server の URL] テキストボックスを使って OMSA URL を入力します。HTTPS を含む完全な URL を入力する必要があります。
 2. この URL を保存して設定ウィザードを終了するには、[終了] をクリックします。

NFS 共有の設定

Dell OMIVV でバックアップと復元作業、ファームウェアアップデート、および作業フォルダとして NFS 共有を使用するには、一定の設定項目の実行が必要です。CIFS 共有には追加設定は必要ありません。

NFS 共有の設定には、以下を行います。

1. NFS 共有をホストしている Linux または Unix OS マシンで、[/etc/exports] を編集して [/share/path <アプライアンス IP> (rw) *(ro)] を追加します。

これにより、仮想アプライアンスは完全に共有の読み書きができるようになりますが、他のユーザーは読み取り専用となります。

2. nfs サービスの開始 :

```
service portmap start service nfs start service nfslock status
```

メモ: 上記の手順は、使用している Linux ディストリビューションによって異なる場合があります。

3. すでにいずれかのサービスが実行されている場合は、以下を行います。

```
exportfs -ra
```

OpenManage Integration for VMware vCenter ライセンス

OpenManage Integration for VMware vCenter には 2 タイプのライセンスがあります。

- 評価ライセンス — OMIVV バージョン 3.2 アプライアンスの初回電源投入時に、自動的にインストールされます。評価バージョンには、OpenManage Integration for VMware vCenter で 5 つのホスト (サーバ) を管理することを可能にする評価ライセンスが含まれています。評価ライセンスは、Dell サーバの第 11 世代以降のバージョンにのみ適用される、90 日の試用期間用のデフォルトライセンスです。
- 標準ライセンス — 完全製品バージョンには、最高 10 の vCenter サーバ用の標準ライセンスが含まれ、OMIVV が管理するホスト接続をいくつでも購入できます。

評価ライセンスから完全標準ライセンスにアップグレードすると、注文の確認に関する電子メールが届きます。その後、Dell Digital ストア (<http://www.dell.com/support/licensing>) からライセンスファイルをダウンロードができます。ライセンス .XML ファイルをローカルシステムに保存し、[管理コンソール] を使用して新しいライセンスファイルをアップロードします。

ライセンスは、次の情報を示します。

- vCenter 接続ライセンスの最大数 — 最大 10 の登録済みおよび使用中の vCenter 接続が許容されます。
- ホスト接続ライセンスの最大数 — 購入されたホスト接続の数です。
- 使用中 - 使用中の vCenter 接続ライセンスまたはホスト接続ライセンスの数です。ホスト接続では、この数は検出およびインベントリされたホスト (またはサーバー) の数を示します。
- 使用可能 — 将来使用できる vCenter 接続またはホスト接続ライセンスの数です。

メモ: 標準ライセンス期間は 3 年間または 5 年間のみです。追加したライセンスは既存ライセンスに付加され、上書きはされません。

ライセンスを購入すると、.XML ファイル (ライセンスキー) を、Dell Digital ストア (<http://www.dell.com/support/licensing>) からダウンロードできるようになります。ライセンスキーをダウンロードできない場合は、www.dell.com/support/softwarecontacts に掲載されている、地域および製品ごとのデルサポートの電話番号までお問い合わせください。

トピック:

- ソフトウェアライセンスの購入およびアップロード
- ライセンスのアップロード後のオプション
- 強制

ソフトウェアライセンスの購入およびアップロード

完全製品版にアップグレードするまでは、試用版ライセンスで実行しています。製品の [ライセンスの購入] リンクを使用して Dell ウェブサイトに移動し、ライセンスを購入してください。購入後に、[管理コンソール] を使用してアップロードします。

メモ: [ライセンスの購入] オプションは、試用版ライセンスを使用している場合にのみ表示されます。

1. OpenManage Integration for VMware vCenter で、次のいずれかタスクを実行します。
 - [ライセンス] タブの [ソフトウェアライセンス] の横にある、[ライセンスの購入] をクリックします。
 - [はじめに] タブの [基本タスク] で、[ライセンスの購入] をクリックします。
2. Dell Digital ストア (<http://www.dell.com/support/licensing>) からダウンロードした既知のロケーションに、ライセンスファイルを保存します。
3. ウェブブラウザで、管理コンソールの URL を入力します。
https://<ApplianceIPAddress> の形式を使用してください。
4. [管理コンソール] のログインウィンドウで、パスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
5. [ライセンスのアップロード] をクリックします。
6. [ライセンスのアップロード] ウィンドウで、ライセンスファイルに移動して [参照] をクリックします。
7. ライセンスファイルを選択して、[アップロード] をクリックします。

メモ: ライセンスファイルは .zip ファイルにパッケージ化されている場合があります。 .zip ファイルを解凍し、ライセンスファイル (.xml ファイル) のみをアップロードするようにしてください。 ライセンスファイルには通常、123456789.xml など、注文番号に基づいた名前が付いています。

ライセンスのアップロード後のオプション

新しく購入された製品のライセンスファイル

新しいライセンスを注文すると、注文の確認に関する電子メールがデルから送信され、Dell Digital ストア (<http://www.dell.com/support/licensing>) からライセンスファイルをダウンロードすることができます。ライセンスは .xml 形式です。ライセンスが .zip 形式の場合、ライセンスの XML ファイルを抽出してからアップロードします。

ライセンスのスタッキング

OMIVV のバージョン 2.1 から、標準のライセンスを複数スタックすることが可能となりました。これにより、サポートされるホストの数をアップロードされているライセンスのホストの合計まで増加できます。評価ライセンスはスタックできません。スタックではサポートされる vCenter サーバの数を増やすことができず、複数のアプライアンスを使用する必要があります。

ライセンスのスタック機能には、いくつかの制限事項があります。既存の標準ライセンスの有効期限が切れる前に、新しい標準ライセンスをアップロードした場合は、ライセンスはスタックされます。それ以外の場合、ライセンスの有効期限が切れている状態で新しいライセンスをアップロードすると、新しいライセンスでのホストの数のみがサポートされます。すでに複数のライセンスがアップロードされている場合、サポートされるホストの数は、最後にライセンスがアップロードされた時点で期限が切れていないライセンスでのホストの合計数になります。

期限切れのライセンス

サポート期間 (通常、お買い上げの日付から 3~5 年) を経過したライセンスは、アップロードがブロックされます。アップロードした後にライセンスの有効期限が切れた場合、既存のホストの機能は続行しますが、新バージョンの OMIVV へのアップグレードはブロックされます。

ライセンスの交換

ご注文に関する問題があり、デルから交換用のライセンスを受け取った場合、交換用のライセンスの資格 ID は以前のライセンスと同じになります。交換用のライセンスをアップロードする際、同じ資格 ID のライセンスがすでにアップロードされていると、そのライセンスは置き換えられます。

強制

アプライアンスのアップデート

すべてのライセンスが失効している場合、アプライアンスでの新しいバージョンへの更新は許可されません。新しいライセンスを取得してアップロードした後で、アプライアンスをアップグレードします。

評価用ライセンス

評価ライセンスの有効期限が切れると、いくつかの主要な領域の動作が停止し、エラーメッセージが表示されます。

接続プロファイルへのホストの追加

接続プロファイルにホストを追加しようとする際に、ライセンスを保有する第 11 世代以降のホスト数がライセンス数を超える場合、さらにホストを追加することはできません。

その他の構成情報

OMIVV の設定、管理、および展開オプションの完全ガイドについては、Dell.com/support/manuals で『*OpenManage Integration for VMware vCenter User's Guide*』（OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイド）を参照してください。

関連文書とリソース

このガイド以外にも、dell.com/support/manuals で利用できる他のガイドにアクセスすることができます。マニュアルページで、[すべての製品から選択] カテゴリの [製品の表示] をクリックします。[すべての製品] セクションで、[ソフトウェアとセキュリティ] > [仮想化ソリューション] の順にクリックします。[OpenManage Integration for VMware vCenter 3.2] をクリックすると、次の文書にアクセスできます。

- [*OpenManage Integration for VMware vCenter Quick Installation Guide for vSphere Web Client Version 3.2*] (vSphere Web クライアントバージョン 3.2 向け OpenManage Integration for VMware vCenter クイックインストールガイド)
- [*OpenManage Integration for VMware vCenter for Desktop Client User's Guide Version 3.2*] (Desktop Client 向け OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイドバージョン 3.2)
- [*OpenManage Integration for VMware vCenter for Web Client User's Guide Version 3.2*] (Web クライアント向け OpenManage Integration for VMware vCenter ユーザーズガイドバージョン 3.2)
- [*OpenManage Integration for VMware vCenter Release Notes Version 3.2*] (OpenManage Integration for VMware vCenter リリースノートバージョン 3.2)
- [*OpenManage Integration for VMware vCenter Compatibility Matrix Version 3.2*] (OpenManage Integration for VMware vCenter 互換性マトリックスバージョン 3.2)

[delltechcenter.com] では、ホワイトペーパーなどの技術に関する成果物を検索できます。Dell TechCenter Wiki ホームページで、[システム管理] > [OpenManage Integration for VMware vCenter] の順にクリックすると各文書を参照できます。

トピック：

- [デルサポートサイトからの文書へのアクセス](#)

デルサポートサイトからの文書へのアクセス

必要なドキュメントにアクセスするには、次のいずれかの方法で行います。

- 次のリンクを使用します。
 - すべての Enterprise システム管理マニュアル — Dell.com/SoftwareSecurityManuals
 - OpenManage マニュアル — Dell.com/OpenManageManuals
 - リモートエンタープライズシステム管理マニュアル — Dell.com/esmmanuals
 - OpenManage Connection エンタープライズシステム管理マニュアル — Dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement
 - Serviceability Tool マニュアル — Dell.com/ServiceabilityTools
 - OpenManage Connections クライアントシステム管理マニュアル — Dell.com/DellClientCommandSuiteManuals
 - OpenManage 仮想化ソリューションマニュアル — Dell.com/VirtualizationSolutions
- Dell サポートサイトから、
 1. Dell.com/Support/Home に移動します。
 2. [製品の選択] セクションで、[ソフトウェアとセキュリティ] をクリックします。
 3. [ソフトウェアとセキュリティ] グループボックスで、次の中から必要なリンクをクリックします。
 - **エンタープライズシステム管理**
 - **リモートエンタープライズシステム管理**
 - **Serviceability Tools**
 - **Dell Client Command Suite**
 - **接続クライアントシステム管理**
 - **仮想化ソリューション**
 4. ドキュメントを表示するには、必要な製品バージョンをクリックします。
- 検索エンジンを使用します。
 - 検索 ボックスに名前および文書のバージョンを入力します。